

令和6年10月10日

川崎市議会議長 青木功雄様

宮前区在住者

川崎市制100周年及び交通局事業80周年の記念事業として市営
トロリーバスを復元保存・活用に関する陳情

陳情の要旨

かつて本市交通局で、市民の足として活躍したトロリーバス（高津区二子塚公園にて保存中）を市制100周年、交通局事業80周年記念事業としてしかるべき場所にて復元保存し、歴史的・文化遺産として次世代へ継承していくことを陳情するものです。

陳情の理由

市制100周年及び交通局事業80周年の記念事業として、市民が他都市に誇れる新しいモニュメントができます。

トロリーバスは二酸化炭素を排出しない交通機関であり、脱炭素先行地域や本市地球温暖化対策推進基本計画等の施策推進のシンボルとして広報や社会・環境教育に役立つものです。国内で唯一営業している立山トンネルトロリーバスも本年11月30日が最後となります。トロリーバスが保存されている事例は全国的にも希有で大変希少性があります。

本市の発展に貢献したトロリーバスを保存・展示し、更にイベント等に活用することにより新たな観光資源としての集客や市の知名度・イメージアップにつながります。候補地としては市民ミュージアムが被災してしまったため、現在計画中の「新たな美術館・博物館」等が考えられます。大阪市では大阪メトロ（旧大阪市交通局）森之宮検車場市電保存庫に市電とトロリーバスを保存しており、2014年（平成26年）に大阪市の指定文化財となりました。

トロリーバスがこれまで残存できたのは、地元町会と高津区役所の多年にわたる努力のたまものであり、先人が築き上げた財産です。今こそ過去の100年を振り返り、これからの100年に向けて行動を起こすときです。

1 川崎市電とトロリーバスの歴史と現状

(1) 川崎市電

川崎市電は戦争末期昭和19年10月14日に開業しました。戦争中の大空襲で壊滅状態となりましたが、戦争の終結とともにいち早く復旧しました。戦後は臨海部の会社や工場の復興も進み、乗客も増加していきました。昭和20年度に1日平均9,300人だった乗客は、ピークの昭和36年には3万5,600人となり、営業キロ6.95キロメートル、在庫車両16両、年間走行キロ84万キロメートルとなりました。この頃、臨海部は石油コンビナートも登場しています。高度経済成長が続いていた頃は、3線式で貨物輸送も行われ工業都市川崎の発展の一翼を担いました。その後、臨海交通の中心は自動車に移り、市電はその機能を次第に低下させていきました。そして、昭和44年3月31日に歴史的使命を終えました。

昭和44年度に開園された桜川児童交通公園の一隅に、廃止された川崎市電の代表車両として702号を設置し、市民来園者の休憩施設に利用されてきましたが、海にも近く野ざらしで車体の腐食や破損がひどくなり、施設の使用に耐えられない状態になりました。旧川崎市電の現存する唯一の車両という歴史的価値観から、各方面から復元保存の声が高まりました。昭和53年度当時、伊藤三郎市長が、環境保全局（島村龍蔵局長）の予算で車両復元と同格納庫を建設する答弁をされ、復元工事を行った前例があります。

（約1,250万円）

昭和53年に保存館が建設されましたが、外から見えないため平成13年に撤去され、現在は屋根付きで屋外に保存されております。残念ながら川崎駅からも遠いため、広く市民に知られておりません。

(2) トロリーバス

川崎市営トロリーバスは、東京都・横浜市よりいち早く、戦後東日本で初めて走り、昭和42年当時にはトロリーバスは19両ありました。昭和26年から昭和42年まで川崎駅から水江町まで7.3キロメートルの路線は、同様に

本市と臨海部を結んだ市電と共に、市の工業都市の復興に大いに貢献しました。車体中央部から突き出したうさぎの耳のような2本のポールが特徴で、道路上に張られた架線から電気を取って走行しました。「トロバス」と呼ばれて市民に親しまれ、満員の「トロバス」が、架線とポールの間に火花を飛び散らしながら疾走する姿は正に躍進する川崎の姿そのものでもありました。

廃止後は4両のトロリーバス（700型）は、横浜市営バスへ移り現役を継続した車両もありましたが、市内では南平台連合自治会や明石穂団地で児童図書館や二子第5町会の母親クラブや集会場にて利用されるものもありました。現存する車両は高津区二子塚公園（高津区二子6丁目1-11）に残る104号1両です。数年前までは開放展示されていましたが、現在では老朽化が進み、仮囲いで閉鎖されている状況です。地元からは防犯や防災対策の観点から早急にトロリーバス及び上屋を解体撤去し、公園としての整備を求める声が上がっているとのこと。

2 市議会にて御議論いただきたいポイント

- (1) 地元の御要望に沿って二子塚公園を早急（年内）に更地化することを進めていただきたいと思います。このトロリーバスは一度解体してしまうと市民全体が歴史的価値ある資産を失うことになり、取り返しがつきません。
- (2) 復元や保存には多額の費用が掛かり、その場所や予算確保・計画作りには議会や市役所を中心に有識者も交え、時間を掛けて十分検討する必要があります。
- (3) このため上記の方向性が出るまで、市有地等にこのトロリーバスを一旦移設・保管する必要があります。その運搬費や保管費には100周年記念事業予備費を充当することを提案いたします。これまで二子塚公園のトロリーバスの寂しい姿を見た市民や有識者から、本市はなぜあのような歴史的な遺産を整備せずに長年放置しているのかという厳しい意見も頂いております。川崎区役所作成ペーパークラフト「かわさきの宝物」シリーズの中にもトロリーバスがあります。
- (4) 長野県の大町市（人口2.7万人）では、廃車寸前のトロリーバスを全国か

らふるさと納税を活用したクラウドファンディングで資金を集め、保存に成功したという事例もあります。

3 「新たな博物館、美術館に関する基本的な考え方」における役割とその方向性

役割・方向性 1、都市川崎の歴史と文化の継承

役割・方向性 2、自ら学ぶ機会の創出

役割・方向性 3、多様なつながりの創出

4 参考事例の紹介

(1) 市内・近隣の施設

ア 宮前区宮崎台駅前にある東急「電車とバスの博物館」

電車やバスが保存されており路面電車（200形）やバス 2 両が室内に保存されています。

イ 渋谷駅前にあった「青ガエル」東急5000形

現在は大館市に移転されたものの当時は駅前広場のシンボルとして親しまれていました。

ウ 川崎区田島町にある「S O M P O ケアラヴィーレ浜川崎」

市電通りに面している民間施設の 1 階に川崎市電の歴史や写真が掲示されています。

(2) 横浜市役所庁舎内の壁面に横浜市交通局の歴史や写真が展示されています。

(3) 京都市内の施設「梅小路公園市電ひろば」

保存車両 6 両のほか、市電カフェや鉄道グッズショップがあり、市の手作りイベントも開催され、多くの市民や観光客に親しまれています。

(4) 大阪市・大阪メトロ

大阪メトロ（旧大阪市交通局）森之宮検車場市電保存庫に市電とトロリーバスが保存されており、2014年（平成26年）に大阪市の指定文化財に指定され不定期イベントで公開されています。

(5) 長野県大町市（人口2.7万人）のトロリーバス保存例

1964年（昭和39年）から2018年（平成30年）まで立山黒部アルペンルートのうち、扇沢駅（大町市）と黒部ダム間にトロリーバスが走っていました。

た。2018年（平成30年）11月30日にラストラン後、電気バスに置き換えられ車両は廃車される予定でした。しかしながら、最後の1両が解体会社に残されていることが分かり、大町市は歴史や文化の象徴として保存すべきと決めました。しかしながら財政状況が厳しいため、ふるさと納税を活用したクラウドファンディングを試み、目標金額を達成して無事扇沢駅近くにあるトロバス記念館に保存することができました。

私は2021年（令和3年）8月1日のトロバースデーというイベントに参加し、翌8月2日大町市役所を訪問し、当時の担当者から保存に至る貴重なお話を伺うことができました。